

きぼう

明石市立大久保北中学校 第1学年
学年通信 第32号
平成30年7月11日(水)

忍耐とは希望を持つ技術である。

学校ホームページ URL : http://scwww.edi.akashi.hyogo.jp/~jr_okbn/

西日本豪雨災害



7月10日(火)現在、神戸新聞によりますと死者126人と大きな見出しが出ていました。今回の豪雨は平成で最悪の被害をもたらしたと書かれています。被害にあわれた方々、現在も被災地で復旧活動にあたられている方など多くいます。今、私たちが被災された方々にできることは何でしょうか。家に帰って自分たちにできることを見つけて、少しでも行動にうつしたいです。自然と共に生きる私たちにとっては先日の大阪北部地震や豪雨災害など様々な災害を経験する可能性はこれからもあります。『きぼう』32号では政府公報オンラインに掲載されている防災対策の一部を紹介します。

◆ 災害時に命を守る一人一人の防災対策

地震や津波などの自然災害は、時として、想像を超える力で襲ってきます。しかし、日頃から防災対策をしておくことで、被害を少なくすることはできます。防災対策で大切なことは、自分の身の安全を守るために一人一人が取り組む「自助」。そのポイントを紹介いたします。

◆ 一番大切なのは、一人一人が取り組む防災

災害による被害をできるだけ少なくするためには、一人一人が自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」が重要だと言われています。その中でも基本となるのは「自助」、一人一人が自分の身の安全を守ることです。特に災害が発生したときは、まず、自分が無事であることが最も重要です。「自助」に取り組むためには、まず、災害に備え、自分の家の安全対策をしておくとともに、家の外において地震や津波などに遭遇したときの、身の安全の守り方を知っておくことが必要です。また、身の安全を確保し、生き延びていくためには、水や食料などの備えをしておくことも必要です。

◆ 家の中の安全対策をしておく

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などでは、多くの方が倒れてきた家具の下敷きになって亡くなったり、大けがをしたりしました。大地震が発生したときには、「家具は必ず倒れるもの」と考えて、防災対策を講じておく必要があります。

寝室や子ども部屋などには、できるだけ家具を置かないようにし、家具を置く場合はなるべく背の低い家具にし、転倒防止対策をとりましょう。

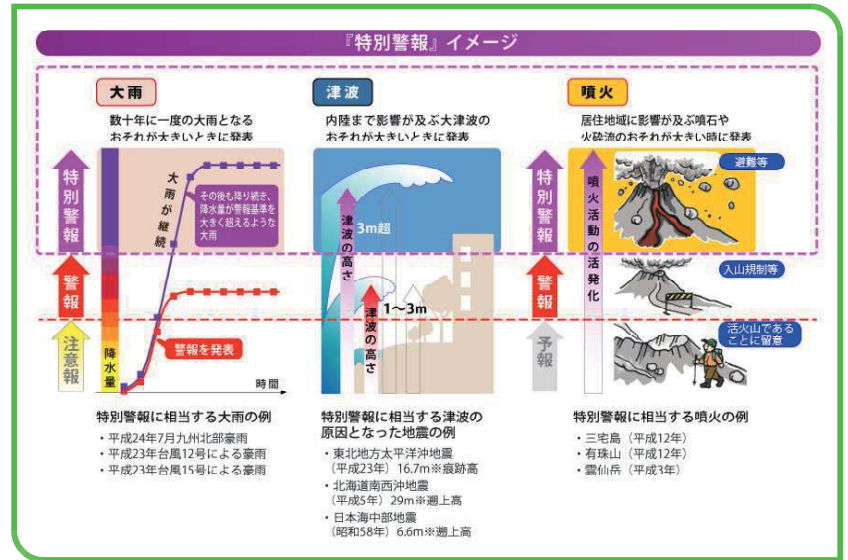
また、手の届くところに、懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを備えておきましょう。

◆ ライフラインの停止や避難に備えておく

大災害が発生したときには、電気やガス、水道、通信などのライフラインが止まってしまう可能性があります。ライフラインが止まっても自力で生活できるよう、普段から飲料水や非常食などを備蓄しておくことが大切です。

◆ 安否情報の確認方法を家族で決めておく

家族がそれぞれ別々の場所にいるときに、災害が発生したときには、お互いの安否を確認できるように、日頃から安否確認の方法や集合場所などを家族で話し合っておきましょう。家族みんなが携帯電話を持っている場合でも、災害時は回線がつながりにくくなるため、連絡がとれない場合があります。安否確認には、「災害用伝言ダイヤル(171)」、携帯電話のインターネットサービスを利用した「災害用伝言板」などのサービスを利用しましょう。



政府広報オンラインより

★★毎学終了★★

- 7冊目…
- 5冊目…
- 4冊目…
- 3冊目…
- 2冊目…
- 1冊目…

～7月9日(月)

6冊目…